

第 1 回（定例）兵庫県教育委員会会議録

1 開会・閉会の年月日時及び場所

令和 3 年 4 月 8 日（木）15:00 ～ 16:30

神戸市中央区下山手通 5 丁目

兵庫県教育委員会教育委員会室

2 会議に出席した者の職氏名

教育長	西 上 教 育 長	
教育委員	清 水 委 員	牧 村 委 員
	空 地 委 員	横 山 委 員
事務局	西 田 教 育 次 長	唐 津 教 育 次 長
	吉田事務局参事兼総務課長	永 井 事 務 局 参 事
	高 橋 教 育 企 画 課 長	中 野 財 務 課 長
	稲 次 教 職 員 課 長	塚 本 学 事 課 長
	吉 田 福 利 厚 生 課 長	村 田 義 務 教 育 課 長
	小 俵 特 別 支 援 教 育 課 長	西 田 高 校 教 育 課 長
	近 都 人 権 教 育 課 長	杉 谷 社 会 教 育 課 長
	甲 斐 文 化 財 課 長	北 中 体 育 保 健 課 長
	田 中 ス ポ ー ツ 振 興 課 長	榊 W M G 2 0 2 1 推 進 課 長
	橋 本 教 職 員 課 参 事	兼 本 高 校 教 育 課 参 事
	織 邊 ス ポ ー ツ 振 興 課 参 事	田 村 ス ポ ー ツ 振 興 課 参 事

3 署名委員の指名等について

(1) 署名委員は、西上教育長の指名により、次のとおり決定された。

清 水 委 員 牧 村 委 員

4 前回会議録の承認に関する件

第 2 3 回（定例）兵庫県教育委員会会議録の承認

第 2 3 回定例教育委員会における議事10件、報告事項3件の会議録について、吉田事務局参事兼総務課長が説明し、全員異議なく承認された。

5 議 事

(1) 第 1 号議案

兵庫県教育委員会活動方針（令和 3 年度）

将来の変化を予測することが困難な時代の到来を見据え、第 3 期ひょうご教育創造プランの基本理念である「兵庫が育む ところ豊かで自立する人づくり」を基本に、変化に柔軟に対応し、社会を創造し、先導できる「未来への道を切り拓く力」の育成を目指して、兵庫らしい教育施策を積極的に推進するため、

令和3年度の兵庫県教育委員会の活動方針について、吉田事務局参事兼総務課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり決定された。

(2) 報第1号

教育長が臨時に代理した教育職員の業務の量の適切な管理に関する措置等を定める規則の一部を改正する規則制定

教育職員の一年単位の変形労働時間を整備するための勤務時間条例が一部改正されたことに伴い、一年単位の変形労働時間を適用する場合における県立学校に勤務する教育職員の超過勤務の上限時間を定める等、所要の整備を行うため、標記規則を制定することを教育長が臨時に代理して決定したことについて、橋本教職員課参事が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり承認された。

(3) 報第2号

教育長が臨時に代理した令和3年度学級編制基準及び教職員定員配当方針の決定

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」及び「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に則して、令和3年度学級編制基準及び教職員定員配当方針を教育長が臨時に代理して決定したことについて、塚本学事課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり承認された。

(4) 報第3号

教育長が臨時に代理した令和3年度兵庫県教科用図書選定審議会委員の委嘱

「令和3年度兵庫県教科用図書選定審議会委員」に関して人事異動により委員の変更があり、令和3年4月1日付の委員の委嘱を教育長が臨時代理したことについて、村田義務教育課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり決定された。

(5) 報第4号

教育長が臨時に代理した兵庫県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則制定

文化財保護条例の一部改正により、文化財保護法等による指定を受けていない無形民俗文化財のうち保存及び活用のための措置が特に必要とされるものを登録する登録無形民俗文化財の制度を創設すること等のため、標記規則を制定することを教育長が臨時に代理して決定したことについて、甲斐文化財課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり承認された。

6 報告事項

(1) 2021年度実施兵庫県公立学校教員募集パンフレット及び採用試験実施要項

令和4年度に新規採用する教員の募集区分・人数・教科及び今後3年間の教員採用計画について、稲次教職員課長が報告した。

(2) 「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書」

「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書」を踏まえ、今後の県立

高等学校教育改革の方向性について、兼本高校教育課参事が報告した。

(3) 令和3年度県立美術館・博物館、図書館の展覧会等計画

令和3年度県立美術館・博物館、図書館の展覧会等の計画について、杉谷社会教育課長及び甲斐文化財課長が報告した。

(4) 県立図書館デジタル化郷土資料の公開

県立図書館デジタル化郷土資料の公開及びHP等での発信について、杉谷社会教育課長が報告した。

7 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 2021年度実施兵庫県公立学校教員募集パンフレット及び採用試験実施要項

(牧村委員)

昨年度からの主な変更点として、タブレット端末を使用した模擬授業を技術に導入することとなっている。以前に、理科等の他教科への導入について、数学や理科などで考えていきたいとのコメントもあったが、検討状況を教えてほしい。また、PRビデオは、原稿を読んでいる感が否めないが、やはり情熱が前面に出ないといけない。これから先生になりたい、就職したいという人たちの要望や不安、ニーズに合ったビデオになっているのか。

(稲次教職員課長)

1点目のタブレット端末を利用した模擬授業については、パンフレットには間に合わなかったが、数学で検討をしており、ホームページで追加の発表をしたいと考えている。最初に記者発表をした時に、今後追加する可能性があるとしているので、できるだけ早い段階でホームページに示していこうと考えている。

ビデオの件では、ご意見ありがとうございます。初任の先生は原稿を見ずに話せるが、主幹教諭以上になると心配になるのか、県に気を遣って話さないといけなくなるのか、原稿を用意されて見ながら話されていた。

(牧村委員)

原稿を読むのは、伝える意味で適切ではない。

(稲次教職員課長)

今回は初めての試みであり、みなさんの意見を聞きながら来年度はもっと良い内容にしていきたい。動画の一部については、撮り直しを検討する。

(西上教育長)

新任の先生方が受験生であった時や兵庫県の教員をめざした時にどんなことを思ったのかということ踏まえて作った。教育内容だけではなく、仲間がいるよ、研修もあるよ、先輩のフォローもしてもらえるよ、というような項目を選んでいるが、呼びかけるような言い方にはなっていなかったのかもしれない。

それについて、新任の先生方にできたビデオを見てもらい評価をしてもらうことで、PRビデオとしての効果を評価してみたい。研修時にアンケートをする。

(稲次教職員課長)

分かりました。よろしくお願いします。

(西上教育長)

初めての試みであるので、いろんな挑戦をしたいと思う。

(牧村委員)

会社ではマーケティングの手法を必ず活用し、供給者側ではなく、市場からの評価を重視する。

(西上教育長)

その思いは常に持ちながら、やっていきたい。来年度もきちんと採用ができるように頑張りたい。

(2) 県立図書館デジタル化郷土資料の公開

(牧村委員)

前にも話したが、データを羅列するのではなく物語を作るべきである。単にデータ集をホームページに出しても、あまり見られないと思う。文化財にしても、ストーリーをつくり、それを前面に出し、興味を持ってもらう。そのような布石を打てば、そこから奥のコンテンツへと入っていくと思う。そのような工夫をしなければ、話題とならず、多くの人たちはホームページを見ない気がする。

(杉谷社会教育課長)

牧村委員のおっしゃるとおり、利用者の点に立つとそういう観点は必要だと思う。まだまだ研修の成果が出ていない状況のため、これから全体を見ながらどういうふうな広報の仕方をしていけば良いのか、そういう物語性なども含めて様々な研修をしていきたい。

(牧村委員)

企業では売るためには絶対にマーケットリサーチをやる。供給者側の視点ではなく、セールスをする人がマーケット、お客様の目で見ると。今までの活字をデジタルで出すという発想は、供給者側の論理で、見る方には伝わらない。相手がどこに食いつくかという視点がなければ、企業でいえば全然売れずにシェアが取れないということになる。そのあたりは、できれば多くの方々に活用してもらいたい図書館にとってもやはり本質的な課題の一つである。少し工夫するだけで様変わりできる可能性があるのだから、しっかりと考えて欲しい。

(杉谷社会教育課長)

資料をつくった時には、こういった利用ができますよとか、こういう物がここから見られますよという、受け手がどういうメリットがあるかという点については、十分意を用いていきたい。

(西上教育長)

先日、神戸市長が講演をされた市の方針の中で、地下鉄の駅周辺のリニューアルでは、図書館を置くという話があった。図書館を置くと地域の活性化、人の集まる場所になるということが、図書館に求められている新たな機能かと思う。人が来る場所に図書館を変えていき、そこで図書に興味を持ってもらう仕組みや方向性が新たな活用方策かと思う。明石もそういう形でされている。県の図書館についても、今後そういった図書館に求められる機能を付加しながら本に親しんでもらう、そういったアプローチが要るかなと思う。そのツールとして、少なくともデジタル化はしておかなければならない。今回デジタル化をしたが、待ちの姿勢

ではなく、来てもらえるような取組はいろいろと検討していきたいので、ご助言いただければと思う。

8 閉 会

以 上